

site & art 02

From Window Date 2018.

窓
か
ら
ら

10.27 sat –

11.25 sun

Open

Friday,

Saturday,

Sunday,

National

Holidays

Hours

11:00–19:00

Venue

ART LAB

AICHI

会期 |

2018年10月27日(土) ~11月25日(日)

開館日時 |

金・土・日・祝 11:00~19:00

会場 |

アートラボあいち

主催 |

あいちトリエンナーレ実行委員会

サ
イ
ト
&
ア
ー
ト
02

アトラボあいちが入る建物は1933年に竣工し、戦火をくぐり抜けて現在も残る名古屋では貴重なものです。タイルの壁面や、大きなまわり階段、そして建物に表情を与える窓など、個性的な意匠がよく目にとまります。階段の踊り場に穿たれた丸窓も印象的ですが、一見何でもない展示室の窓が実はとても魅力的な存在です。おそらく割れたものから徐々に取り替えられてきたためか、かつての揺らぎがあるガラスから近年の平滑なガラスまで、時代を経て異なったガラスが嵌め込まれているため、連続するガラス窓に多様な表情を見出すことができます。

そんな「窓」という存在を、具体的に、そして観念的に考えてみたいと思います。時間の積み重ねをあらわし、時に空間に揺らぎを与える窓。向こう側とこちら側をつなぎ、隔てる境界としての窓。風景を切り取る、絵画や写真の額（フレーム）を思わせる窓。異なった世界への入り口としての窓。直接に、間接に「窓」にアプローチする作家の作品を介して、空間・時間・人の関係を描き出します。

今枝大輔 Imaeda Daisuke

1974年愛知県生まれ。愛知県拠点。サブカルチャーとの関連を窺わせる絵画を発表していたが、近年では、スクリーン・プロセスの手法やスローモーション、移動撮影など、1960年代頃まで映画の世界で盛んに用いられた、虚構性を感じさせる特殊な効果をデジタル・ビデオという現代の映像機器によって、意識的に取り上げる映像作品を手掛けている。主な展覧会に、「stardust」(個展, YEBISU ART LABO/愛知, 2018)、「[Adbance+]」(key gallery & 青樺画廊/東京, 2016)、「[APMoA Project, ARCH vol.15 今枝大輔 interlude]」(個展, 愛知県美術館/愛知, 2015) などがある。

<http://imaedadaisuke.tumblr.com/>



「interlude」|2015|シングルチャンネルFullHDプロジェクション
展示風景:「[APMoA Project ARCH vol.15 今枝大輔 interlude]」
愛知県美術館(愛知)2015

大洲大作 Oozu Daisaku

1973年大阪府生まれ。神奈川県拠点。写真を軸に、営為を風景にみる。列車などの車窓にうつろい滲む、営為をうつろい光として影を掬い上げる《光のシークエンス》《遠/近》などを制作。近年は列車の「車窓」に材を取ったインスタレーションを発表している。主な展覧会に、「めがねと旅する美術展」(青森県立美術館/青森ほか, 2018-2019)、「写真+列車=映画」(カマタ_ソコ/東京, 2017)、「ラブラブショー 2」(青森県立美術館/青森, 2017)、「さいたまトリエンナーレ 2016」(埼玉, 2016)、「始発電車を待ちながら」(東京ステーションギャラリー/東京, 2012-2013) などがある。

<https://www.oozu.info/>



遠/近-島根より|2018|島根県の車窓を撮影した写真、プロジェクター、鉄道車両の車窓(国鉄特急型電車)
展示風景:「めがねと旅する美術展」島根県立石見美術館(島根)2018

津田道子 Tsuda Michiko

1980年神奈川県生まれ。東京都拠点。映像の特性にもとづいた制作を軸に置き、映像、インスタレーション、パフォーマンス作品を制作している。パフォーマンスとの共同作業などを通じた、独特のスタイルの作品群は、不思議な空間的広がりや詩的な豊かさを備えている。2019年にアジア・カルチュラル・カウンシル(ACC)のグランティとしてニューヨークに滞在予定。主な展覧会に、「Observing Forest」(個展, zarya 現代美術センター/ウラジオストク, 2017)、「オープン・スペース 2016 メディア・コンシャス」(NTT ICC/東京, 2016)、「[MEDIA/ART KITCHEN」(BACC/バンコク, 2013) などがある。

<http://2da.jp/>



「あなたは、翌日に会いにそこに戻ってくるでしょう。」|2016|木、鏡、スクリーン、ビデオカメラ、プロジェクター|サイズ可変|作家蔵|撮影:山本料
展示風景:「オープン・スペース 2016 メディア・コンシャス」
NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] (東京) 2016

堀辰雄 Hori Tatsuo

1904年東京都生まれ。1953年長野県にて没。小説家。室生犀星、芥川龍之介に師事。純粋な愛や生死についての作品を多く残している。フランス文学、特に心理主義的手法の影響を受け、知性と叙情の融合した独自の世界を築いた。代表作に、『聖家族』(1930年)、『風立ちぬ』(1936年—1938年)、『菜穂子』(1941年) などがある。長野県軽井沢市に「堀辰雄文学記念館」がある。

企画・運営 |

服部浩之 (キュレーター、アトラボあいち ディレクター)

会田大也 (「あいちトリエンナーレ2019」キュレーター[ラーニング])

野田智子 (「あいちトリエンナーレ2019」コーディネーター[ラーニング])

谷薫 (「あいちトリエンナーレ2019」コーディネーター[ラーニング])

近藤令子 (「あいちトリエンナーレ2019」アトラボあいち コーディネーター)

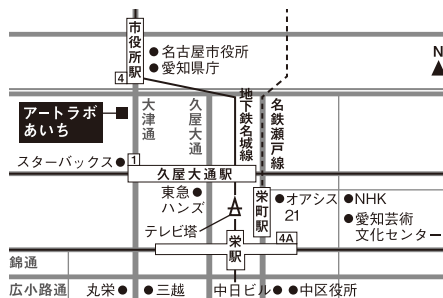
「展覧会の体験をデザインする」受講生

■ 人材育成プログラム「展覧会の体験をデザインする」

あいちトリエンナーレの新しい試みとして、この地域におけるアート分野の専門家への育成に取り組んでいます。「展覧会とはどのような環境で成立し、鑑賞者は展覧会をどのように体験するのか」を座学で学び、また本展を実践の場として位置付け、鑑賞者の体験をより能動的に促すための環境(アート・ブレイグラウンド)づくりを人材育成プログラムの受講生と共に進めています。

■ アート・ブレイグラウンド

「受けとめる、深める、形にする」をキーワードに、来場者の作品への興味を振り下げ、作品から受けた印象を表現活動や他者との対話へと促す場として、子どもから大人まで来場者同士が相互に学び合い創造性を楽しむための環境を「アート・ブレイグラウンド」と称し整備します。なお、本展で展開する「アート・ブレイグラウンド」は、「あいちトリエンナーレ2019」のラーニングプログラムで本格始動するためのプロトタイプとして、実践するものです。



アトラボあいち ART LAB AICHI

開館日 | 金・土・日・祝のみ開館

時間 | 11:00—19:00

名古屋市中区丸の内3-4-13 愛知県庁大津橋分室2~3階

TEL&FAX 052-961-6633

E-mail ala@aichitriennale.jp

○地下鉄名城線「市役所」駅下車、4番出口から南へ徒歩5分

○地下鉄桜通線・名城線「久屋大通」駅下車、

1番出口から北へ徒歩8分

<http://aichitriennale.jp/ala/>



情の時代
あいち
トリエンナーレ
2019
AICHI TRIENNALE 2019
Timing Y-Our Passion



文芸文化
平成30年度文化庁
文化芸術創造拠点形成事業